

# 令和 2 年度の年金広報計画 (厚生労働省)

令和 2 年 7 月 27 日  
厚生労働省年金局総務課  
年金広報企画室

# 1 年金広報の基本方針

---

年金広報をめぐる環境変化を踏まえつつ、一人ひとりの選択を支援し、適切な行動を促す役割を果たすためには、今後、年金広報の改善に取り組んでいく必要

## 1. 技術革新への対応、きめ細かさ・わかりやすさの改善等

- 適切な選択に資するような、わかりやすい広報を追求
- 新しい手法の活用等により、一人ひとりの多様な状況（世代や職業など）にきめ細かく対応した情報提供等を実施し、さらに行動を支援

## 2. 公的年金と私的年金を合わせた総合性の強化

- 公的年金・私的年金やその他の資産形成手段について、幅広く情報を提供し、自分に相応しいものを選択できるようにする
- 行政内部だけでなく金融機関なども含めて、連携体制の構築を図る

## 3. エビデンスに基づいた広報のあり方

- 一人ひとりのニーズを正確に把握した適切な行動につなげる

## 4. 効果把握・PDCAサイクルの強化

- 広報が適切な選択・行動につながったかを把握し、PDCAによって絶え間なく手法等を改善

# 1 - 2 年金制度に関する周知・広報のこれまでの主な取組み

## 1 国民1人1人のライフスタイルに合わせて情報が探しやすい広報

年金制度・手続や老後の資産形成についての情報が、個人のライフスタイルに応じて簡単に探せるよう、適切な情報の入り口として「年金ポータル」を設置



## 2 公的年金制度の仕組みや将来の見通しが分かりやすい広報

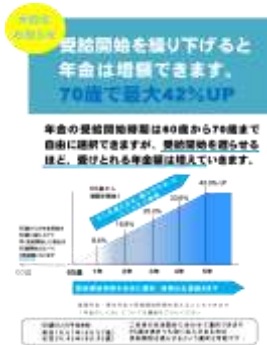
■ いっしょに検証！公的年金（マンガ・解説）



## 3 年金の手続きが視覚的に分かりやすいパンフレット・リーフレットによる広報

■ 受給者用  
年金請求書同封  
リーフレット

■ 若年者用  
国民年金パンフレット



## 4 国民1人1人が参加して年金制度の意義や仕組みの理解を深める広報

■ 年金広報コンテスト

次代を担う若い世代と一緒に年金について考えることを目的に「令和の年金広報コンテスト」を開催。



■ 「学生との年金対話集会」

学生と厚生労働省（年金局）職員が年金について語り合うことを通して、学生に年金の問題について考えていただくとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かしていく



# 1 - 3 年金広報に関するこれまでの議論

「社会保障審議会年金部会における議論の整理」(令和元年12月27日 社会保障審議会年金部会)(抄)

## II 今般の年金制度改革

### 1 短時間労働者等に対する被用者保険の適用拡大

- 具体的には、政府が制度の内容を周知するとともに、事業主自身が労働者に対し、労働者本人が自らの適用の状況について理解できるよう、正確かつ丁寧に説明することも重要である。

その際、今回の適用拡大の対象となるのは中小企業が中心であり、従業員への丁寧な対応に必要な知見や人員が十分でない可能性があることから、個々の企業が社会保険や労務の専門家を活用し、従業員への対応を十分に行えるようにするための支援を行うことが考えられる。専門家による企業向け説明会等を開催するほか、個々の企業が従業員向けに行う説明会に専門家を派遣するなど、踏み込んだ対応も検討すべきである。

また、企業が従業員への説明に使えるよう、または労働者本人が自ら被用者保険加入のメリットを実感することができるように、自らの適用状況が適切であるかを確認できるよう、非専門家でも理解しやすい説明ツールを整備することも必要である。

## III 今後の年金制度改革の方向性

### 4 その他

- 高齢期の生活は多様であり、それぞれの方が望ましいと考える生活水準や、働き方の希望、収入・資産の状況なども様々である。公的年金制度に関する関心内容として「自分が受け取れる年金はどのくらいか」が最も高くなっており、制度自体の広報・周知に加えて、個々人の老後の公的年金の支給額等がいくらとなるか若い頃から見通せるようにすることが、老後生活や年金に対する不安を軽減するためにも重要である。次期制度改正で、高齢者が自身の就業状況等に合わせて年金の受給開始時期の選択肢を60～75歳までに拡大することも踏まえれば、その必要性は一層高まる。

こうした観点から、これまでも「ねんきんネット」による年金見込額試算の充実などが取り組まれているが、さらに、公的年金、私的年金を通じて、個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」し、老後の生活設計をより具体的にイメージできるようにするための仕組みを検討すべきである。

さらに、個別の制度の仕組みや個々人の状況の情報提供にとどまらず、誰もが人生を歩んでいく上で避けることのできないリスク(年金制度の場合は稼働能力の喪失)に対して、社会全体で連帯して備える社会保障制度という大きな枠組みの中で、貯蓄ではなく保険の考え方を基本に構築されている年金制度の意義や位置付けを理解してもらうことも重要であり、子どもの頃から生涯を通じた年金教育の取組を進める必要がある。

## 2 令和2年度の広報

---

## 2 - 1 令和2年度の取組み

令和元年度に掲げた基本哲学を踏襲しつつ、令和2年度は「令和2年年金改正法の広報」、「個々人の年金の「見える化」」及び「若年世代への広報の強化」の3本柱で展開

### 1. 令和2年改正年金法の広報（議題2で後述）

- 被用者保険の適用拡大
- 受給開始時期の選択肢拡大 等

### 2. 個々人の年金の「見える化」（議題2で後述）

- 令和2年改正年金法の趣旨をわかりやすく正確に伝え、かつ、公的年金、私的年金等を通じて個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」するための仕組みを検討

### 3. 若年世代への広報の強化

#### 3 - 1 公的年金制度の仕組みをわかりやすく、正確に理解するための教育コンテンツの開発

- 年金教材の作成
- 「いっしょに検証！公的年金」のリニューアルの検討（議題3で後述）

#### 3 - 2 国民1人1人が参加して、年金制度の意義や仕組みの理解を深める広報

- 第2回令和の年金広報コンテストの開催
- 学生との年金対話集会の実施



# 2-2 令和2年度における年金制度に関する周知・広報の主な取り組み

## 1 令和2年改正年金法の広報

■令和2年改正年金法について、特に被用者保険の適用拡大について重点的に広報コンテンツを開発し、当該改正の趣旨を正しく周知する。

ニーズ  
把握

コンテンツ  
作成

情報発信  
PDCA  
改善活動

## 3 公的年金制度の仕組みが誰にでも容易に理解できる教材の開発

■令和2年改正年金法の趣旨や、昨今の社会・経済状況の変化に合わせ、若い世代（小中学生向け）の教育コンテンツの開発を行う。

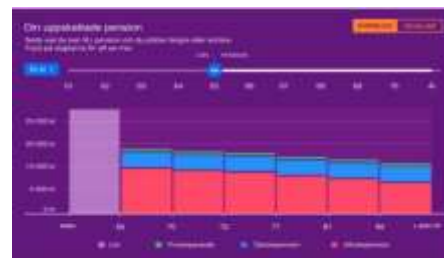


※現在の年金教育コンテンツの例

## 2 個々人の年金の「見える化」の取り組みの検討

■令和2年改正年金法の趣旨をわかりやすく正確に伝え、かつ、公的年金、私的年金等を通じて個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」するための仕組みを構築するため、年金アプリ（公式）の開発を検討する。

<スウェーデン年金庁の「見える化」>



## 4 国民1人1人が参加して年金制度の意義や仕組みの理解を深める広報

### ■ 年金広報コンテスト

次代を担う若い世代と一緒に年金について考えることを目的に「令和の年金広報コンテスト」を開催。

### ■ 「学生との年金対話集会」

学生と厚生労働省（年金局）職員が年金について語り合うことを通じて、学生に年金の問題について考えていただくとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かしていく





(参考1)

# 年金広報コンテスト

## 第2回令和の年金広報コンテストの実施について（報告）

### ■ コンテストの目的

- ・特に次代を担う若い世代の皆様と一緒に、年金（私的年金を含む）について考えることを目的として、ポスター、動画の2部門で年金の広報に関する作品を募集。

※日本年金機構が平成22年から実施している「わたしと年金」エッセイと応募や表彰式を同時期に行うことでねんきん月間に向けた取組みを強化。厚生労働省がポスター及び動画で作品を募集し、日本年金機構がエッセイで作品を募集。

### ■ 募集テーマ

#### <ポスター部門（A4サイズ）>

- ①20歳になったら？（例 国民年金の加入）
- ②保険料が払えないときは？（例 保険料の免除、学生納付特例制度）
- ③もしもの時に支えてくれる年金って？（例 障害年金、遺族年金）
- ④就職、転職、退職、起業するときは？（例 企業年金、国民年金の手続き）
- ⑤老後の暮らしを考えてみると？（例 ねんきんネット、iDeCo（個人型確定拠出年金））
- ⑥その他の手続き

#### <動画部門>

誰にでも年金の意義や大切さが伝わり、感動や共感を呼ぶことができる動画。（10分以内）

## 第2回令和の年金広報コンテストの実施について（報告）

### ■ 応募期間

- ・令和2年6月1日（月）～9月11日（金）

### ■ 賞

- ・部門ごとに厚生労働大臣賞（1点）、年金局長賞（1点）を授与。さらに、協賛特別賞及び佳作（相当数）を授与予定。

※協賛団体は日本年金機構、年金積立金管理運用独立行政法人、国民年金基金連合会、企業年金連合会、公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構を予定。

### ■ 審査手続について

- ・第1次審査は、厚生労働省と年金関係団体が協力して事務的に審査を実施。
- ・その上で、外部有識者からなる年金広報コンテスト審査委員会での審査を経て、結果を発表。

### ■ 表彰式等

- ・厚生労働大臣賞、年金局長賞、協賛特別賞については、受賞者にご連絡するとともに、厚生労働省ホームページ等で発表。佳作については、賞状の発送によりお知らせ。
- ・厚生労働大臣賞については、厚生労働省において表彰式を開催する予定。

## 第2回令和の年金広報コンテストのスケジュール（予定）

- 募集告知  
令和2年6月1日

- ・プレスリリース
- ・厚生労働省HPでの告知

- 募集活動等  
令和2年6月～9月

- ・広報誌（ウェブ、誌面）などでの周知
- ・審査員の選定、依頼

- 提出締切  
令和2年9月11日

- 審査  
令和2年9月中旬～11月上旬

- ・審査（～11月上旬）

- 最終審査（コンテスト・発表）  
令和2年11月（年金月間）

- ・表彰式（11月30日「年金の日」の前後に実施予定）
- ・プレスリリース、HPへの掲載等

## 学生との年金対話集会

# 学生との年金対話集会～今後の展開例と昨年度の実績～

## 趣旨

学生と厚生労働省(年金局)職員が年金について語り合うことを通して、学生に年金の問題について考えていただくとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かしていく

## (概要)

- ・ 全国各地の大学などで開催予定(新型コロナの状況を踏まえつつ、開催方法を検討中)
- ・ 大学などにご協力いただき、大学生などの若者が参加して開催
- ・ 年金制度の説明を行った後、座談会形式で年金をテーマに学生と職員が意見交換
- ・ 開催後、厚生労働省ホームページや大学・市町村の広報誌等で対話集会の様子を公表する予定

## (令和元年度開催実績)

- 6月12日 愛知県立大学
- 7月25日 北海道大学
- 7月30日 東北公益文科大学
- 9月25日 県立広島大学
- 10月3日 帝京大学
- 10月8日 大妻女子大学短期大学部